

159 ○祖業…祖先が開き残し伝えた事業。祖先の功業。

『漢書』「終軍傳」に「必待明聖、潤色祖業、傳于無窮」の用例が見える。

『菅家文章』にも「82講書之後、戲寄諸進士」に「文章暗被家風誘、吏部儉因祖業存」の句が、また「63漢書竟宴、詠史得司馬遷」に「少日纔知誦古文、何圖祖業得相分」の句が見える。

○儒林…儒学者の仲間。儒学者の社会。

『漢語大詞典』には、「指儒学者之群」と説明し、『史記』「儒林列傳」に「張守節正義引姚承曰、儒謂博士、為儒雅之林」の例を引く。

『菅家後集』卷十三によれば、道真が家集二十八卷を奉進した際、醍醐天皇より「見右丞相獻家集」という御製を賜った。そのなかに「門風自古是儒林、今日文華皆盡金」が見える。

○聳 ……そびえる。

160 ○州功…州を治めた功績。「州」は国、ここでは讃州（讃岐国）。

○吏部…①三国魏代以降、官僚の人事をつかさどった官庁。隋代以降、六部（中央行政官庁）の一つとなる。文官の選任、勲階、懲戒などをつかさどる。その長官を吏部尚書、次官を吏部侍郎という。

②式部省の唐名。

ここでは「②」の意。

『漢語大詞典』では、「①旧官制六部之一」と説明する。

『菅家文章』「74早衙」に「晝鼓鑿々何處到、南為吏部北尚書」の句が、また前述した「82講書之後、戲寄諸進士」に「文章暗被家風誘、吏部儉因祖業存」の句が見える。